

# 大宰府跡客館地区整備基本構想

平成 28 年 3 月

太宰府市教育委員会





※「大宰府」と「太宰府」の違いについて

行政的な表記としては、古代律令時代の役所、およびその遺跡に関するダザイフは「大宰府」、中世以降の地名や天満宮については「太宰府」と表記している。

※「推定客館跡」と「客館跡」の表記について

本計画の「第3章遺跡の概要 4. 遺跡の価値 (7) 客館と推定した理由」に基づき、計画策定の過程の中で本遺跡を「客館跡」と位置付けることとした。そのため、本計画中のH27年度以降の本遺跡の名称に関わる箇所については、「推定」を付けずに「客館跡」と明記することとした。

※条坊制とは

古代日本の都が採用した、碁盤目に整備された都市区画のことです。

大宰府にも条坊制が採用され、一区画約90m四方、南北22区画、東は12区画、西は8区画が確認されています。政庁域は北に置かれ、そこからのびる朱雀大路（中央南北大路）の東を「左郭」、西を「右郭」と呼び、それぞれ「郭司」という行政官が管轄しました。各区画は「坪」と呼ばれ、北から一条・二条、朱雀大路に近い方から一坊・二坊と数えて「左郭四条七坊」などと呼称されました。

## 目次

第1章 目的	1
1. 目的	1
2. 構想の検討フロー	2
3. 検討体制	3
第2章 地域の概要	4
1. 太宰府市の概要	4
2. 上位関連計画	5
第3章 遺跡の概要	6
1. 遺跡の位置	6
2. 経緯及び調査成果	8
3. 大宰府の歴史	15
4. 遺跡の価値	29
第4章 課題の整理	30
第5章 基本構想	32
1. 基本理念	32
2. 基本方針	33
第6章 基本構想の実現に向けて	35
1. 段階的整備の考え方	35
2. 整備イメージ	35
3. スケジュール	36

# 第 1 章 目的

## 1. 目的

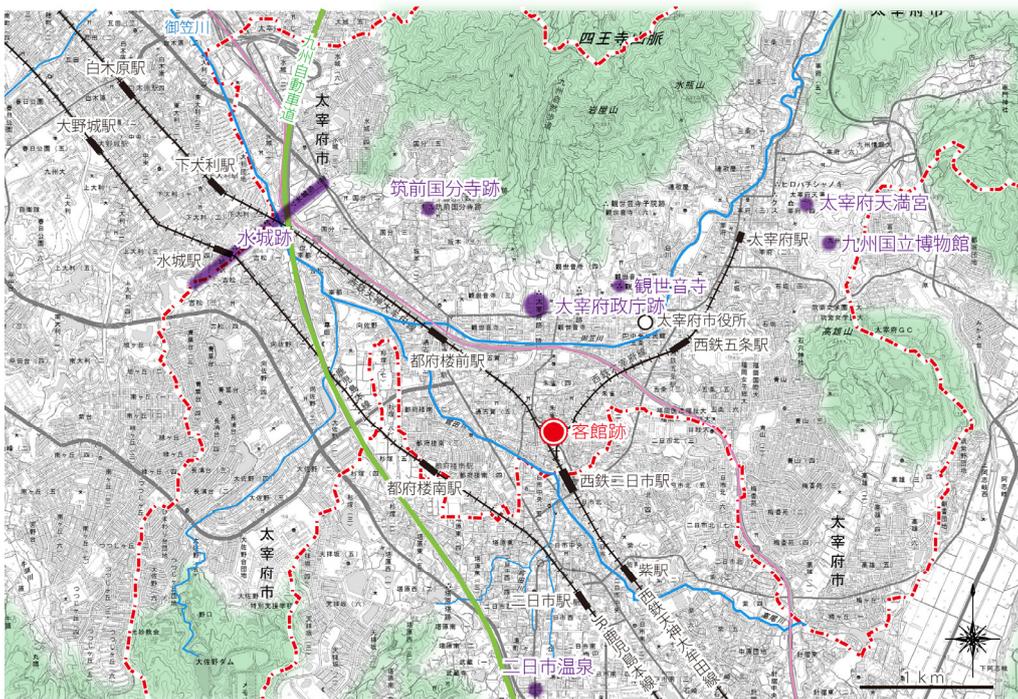
### (1) 目的

本史跡は、福岡県太宰府市朱雀3丁目に所在する。平成7年度には西鉄二日市操車場跡地北辺の市道拡幅に伴い、平成16年度は県道新設に伴い、また平成17年度からは西日本鉄道株式会社（以下、西鉄）の開発計画に先立って、埋蔵文化財発掘調査が行われてきた。これにより古代都市「大宰府条坊」の区画が確認されるとともに、奈良時代の「大型建物群」、新羅製金属食器の「佐波理」などが発見され、この場所が奈良時代から平安時代はじめごろに外国使節を迎え入れた客館跡であったことが推定されるようになった。そして平成26年10月6日、国の特別史跡大宰府跡に追加指定されるに至った。これまで特別史跡大宰府跡は大宰府政庁跡を中心とする史跡であり、客館跡とは1kmほど離れているが、これまで知られていなかった大宰府外交に関わる施設の発見であり、大宰府の歴史像をひもとく上で極めて重要な遺跡であるとの評価が下されたといえよう。

本構想は、この極めて重要な遺跡である客館跡について、史跡の価値の万全な保全を第一義としながら、西鉄二日市駅に近接する立地特性を活かした太宰府への新たな玄関口としての位置づけや活用イメージに即した整備の方向性を示すことを目的とし、さらには、将来における史跡地を縦断する県道や西鉄太宰府線の付け替えも含めた中・長期的視点に基づく構想とする。

### (2) 構想対象の位置

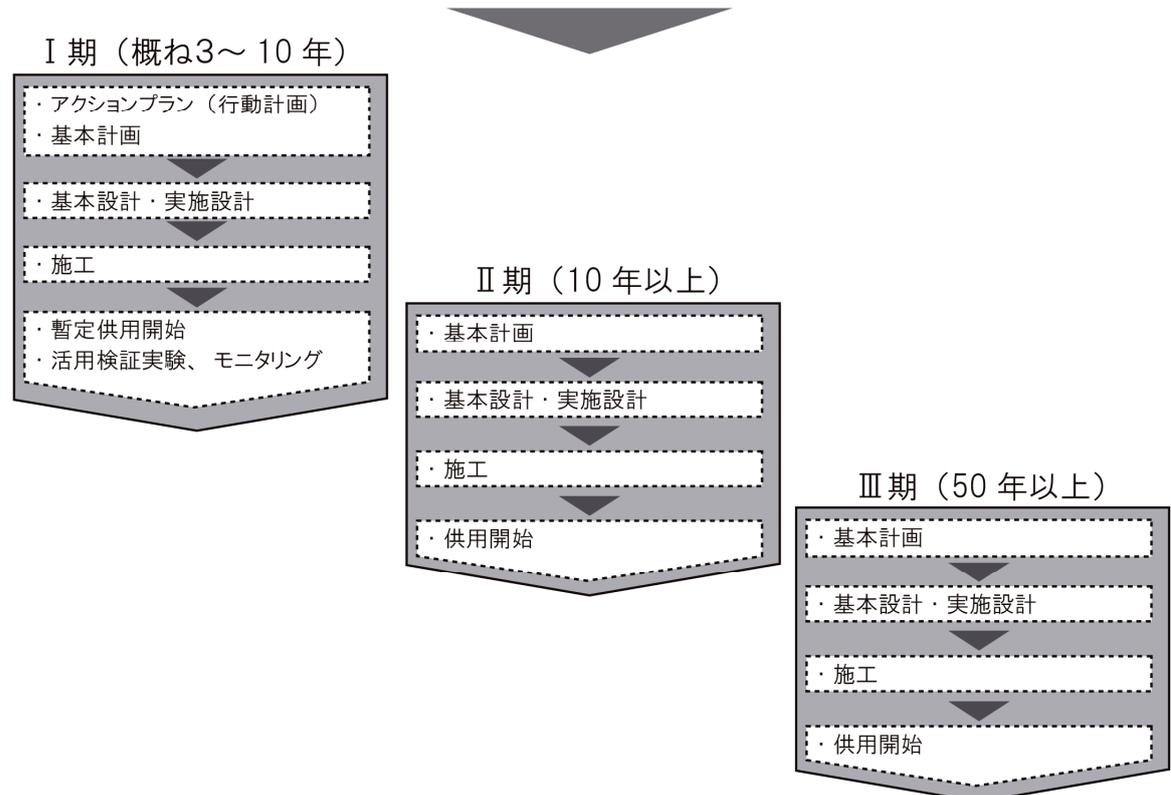
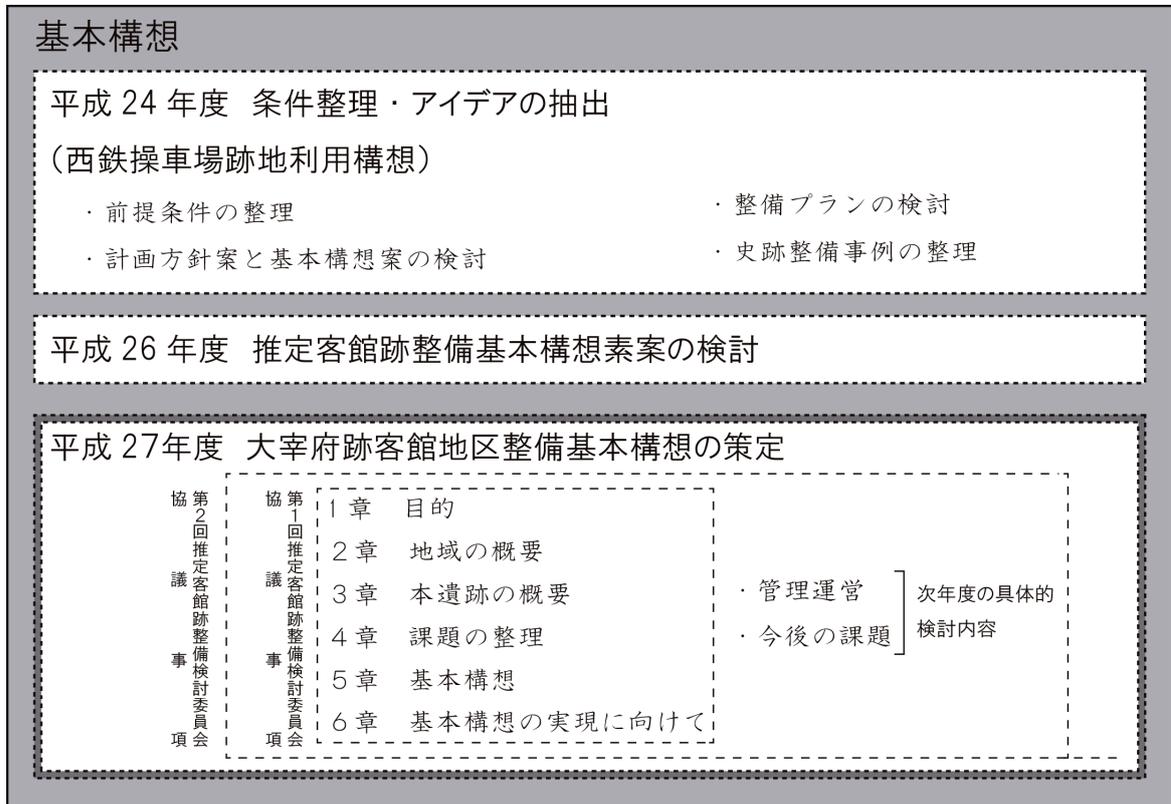
本構想は客館跡及びその周辺を対象とする。なお、大宰府政庁跡や太宰府天満宮、九州国立博物館などとのつながりや連携強化も考慮する必要があることから、周辺に視野を広げた取り組みについても検討する。



構想の対象

## 2. 構想の検討フロー

本構想は以下のフローに従って検討を進めることとする。基本構想策定後は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期の各段階において、計画・設計・施工を進め、次の段階の検討内容に供用開始後の効果や課題をフィードバックさせ、段階的に検討していくこととする。



### 3. 検討体制

構想の策定にあたっては、遺跡の恒久的な保存を前提とした整備・活用に関する方針についての助言を求めるために、平成 27 年度に「推定客館跡整備検討委員会」を設置し、整備にかかる基本理念、基本方針に関すること、基本構想の策定に関すること等について多面的な検討・審議を行い、その結果を「大宰府跡客館地区整備基本構想」として取りまとめた。

検討委員会の委員は、考古、歴史、建築、都市景観、観光の学識経験者に委嘱した。事務局は太宰府市教育委員会文化財課が担当した。

検討委員会委員及び事務局は以下に示すとおりである。

会長	西谷 正	海の道むなかた館 館長 (九州大学名誉教授)	考古学
委員	石見 清裕	早稲田大学 教育・総合科学学術院	教授 歴史(東洋史)
	箱崎 和久	奈良文化財研究所 都城発掘調査部遺構研究室	室長 建築・考古
	包清 博之	九州大学 芸術工学研究院 環境デザイン部門	教授 都市景観
	大江 英夫	九州産業大学商学部第一部 観光産業学科	客員教授 観光
オブザーバー	堀江 広重	西日本鉄道(株) 企画開発部	部長
	竹下 明宏	西日本鉄道(株) まちづくり担当課	課長
	鴨山 一機	西日本鉄道(株) 企画開発担当課	課長
	杉原 敏之	福岡県文化財保護課	文化財保護係長
	入佐 友一郎	福岡県文化財保護課	企画係主査
	木村 昌春	太宰府市都市計画課	課長
	中島 恒次郎	太宰府市都市計画課	景観・歴史のまち推進係長
事務局	木村 甚治	太宰府市教育委員会	教育長
	堀田 徹	太宰府市教育委員会	教育部長
	菊武 良一	太宰府市教育委員会文化財課	課長
	城戸 康利	太宰府市教育委員会文化財課	副課長
	山村 信榮	太宰府市教育委員会文化財課	調査係長
	友添 浩一	太宰府市教育委員会文化財課	保護活用係長
	井上 信正	太宰府市教育委員会文化財課	主任主査
	宮崎 亮一	太宰府市教育委員会文化財課	主任主査
	有田 ゆきな	太宰府市教育委員会文化財課	主事

## 第2章 地域の概要

### 1. 太宰府市の概要

本市は福岡市の南東約16kmに位置し、北東部は糟屋郡宇美町、南東部は筑紫野市、北西部は大野城市に接し、面積は29.58km<sup>2</sup>となっている。東に宝満山、北に四王寺山を有し、南から西北に開け、御笠川が市を縦貫している。

市内には九州自動車道、国道3号、福岡都市高速道路及び筑紫野古賀線をはじめとする県道11路線があり、九州自動車道太宰府インターチェンジ、福岡都市高速道路水城インターチェンジが設置されている。このほか、JR鹿児島本線、西鉄天神大牟田線及び太宰府線の3路線が市民の重要な交通手段となっている。

古代においては大陸文化の窓口、防衛・外交の要衝として「大宰府」が置かれたところであり、中央の南北に朱雀大路を配し、南北の大路（坊）と東西の大路（条）を基盤の目状に組み合わせた条坊制の都市が形成された。その後、都市機能の遷移などによりかつての区画は徐々に失われてしまったが、国指定特別史跡である「大宰府跡」「水城跡」及び「大野城跡」をはじめとして、観世音寺、戒壇院、太宰府天満宮など、数多くの歴史・文化的遺産や九州国立博物館を有していることから、「史跡・観光のまち」としても広く知られている。

かつては、御笠川流域に沿った水田稲作を中心とした農業と、太宰府天満宮門前町を中心とした商業が主要な産業であった。しかし、福岡市を中心とした経済圏の中で、第一次産業、第二次産業の占める割合は次第に低下し、他市への通勤者の増加とともに小売業を中心とした第三次産業が活発化することとなった。



太宰府市の位置



太宰府市における史跡等の分布

## 2. 上位関連計画

本構想は「第5次太宰府市総合計画」を上位計画とし、関連計画や関連施策との整合を図りながら内容を定めるものとする。

